

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 12 月 2 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2013

課題番号：21320112

研究課題名(和文) オラルヒストリー調査による連合軍捕虜と日本軍兵士の行動の文化的位置づけの再検討

研究課題名(英文) Evaluation of cultural behavior of Allied POWs and Japanese soldiers using oral history methodology

研究代表者

中尾 知代 (NAKAO, TOMOYO)

岡山大学・社会文化科学研究科・准教授

研究者番号：40207717

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,800,000円、(間接経費) 2,640,000円

研究成果の概要(和文)：本研究においては、日本国内の捕虜取扱いにかんする文化的側面の資料の書き起こしと・捕虜虐待事件記録のアーカイブ化、JSP(降伏日本兵士)の調査、さらにボンチャナク(マンドール)事件について各国に残る資料と口述資料で照合。日蘭インドネシア戦後の戦争体験継承の比較検討。ごぼうと木の根に代表される文化的齟齬の側面の資料を収集し、戦争・抑留のPTSD概念の研究とその語りによる解決方法を模索した。

研究成果の概要(英文)：In this research we archived both documents and oral resource on JSPs, POWs camp guards, the local memory of the Dutch Civilian internees and clarified the Indonesian local incident in WWII for the cross-cultural analysis of the behavior.

研究分野：史学

科研費の分科・細目：史学一般

キーワード：PTSD 捕虜 JSP 抑留者 戦争 植民地 現地人虐殺 慰霊

## 1. 研究開始当初の背景

- (1) 研究開始当初は、今よりもまだ時間的余裕があったが、すでに第二次大戦の戦場の記憶の継承が危うくなりつつあり、資料が散逸しかけていた
- (2) その中で、可能な現象に絞って戦争資料を口述およびアーカイブ、個人所蔵の資料を収集し今後の研究に役立つものとする。
- (3) 先のオランダ国王も述べていた戦争の惨禍についてとくに日本とオランダ・インドネシアの関係は調査がしづらい状況にあり、その改善
- (4) 戦争のPTSDについては日本において認識や学知が少なかった。またその癒しの方法についても研鑽が少ないため、その意識を高めること
- (5) 世界における日本の立場において、欠かせない捕虜問題の解決を進めることが動機のひとつである。
- (6) 日本においても忘れられた存在である JSP の問題を連合軍捕虜と比較しつつ明晰化する必要を感じた

## 2. 研究の目的

- (1) 研究の目的は、上記に述べた海外・国内の戦争の事象、特に JSP と捕虜、元抑留者、さらに戦争現地の諜報活動を疑われて多くが殺傷された事件の資料を口述・文書資料ともに収集し、事実確認および慰霊などによる「感情の記憶」「PTSD」を探求し、その癒し方を考えることである。
- (2) 上記の資料から、文化的摩擦と思われる部分を抽出し、捕虜・抑留者問題における文化的摩擦の側面の資料を収集する。

- (3) ドイツ・オランダ・英国における戦争や虐待を受けた人々の PTSD を取り扱う医師・治療センター・ケア機関を訪問し、ケアの方法を検討する
- (4) 残虐行為における相手を敵視する時における心理について検討する

## 3. 研究の方法

(1) シンガポール、英国、オランダ、インドネシアにおけるアーカイブにおける資料収集、過去に収集した口述資料の書き起こし

(2) ビルマ(ミャンマー)慰霊旅行同行による日本軍に関連したビルマ人元兵士の記憶・口述資料の収集

(3) オランダ領東インド・日本占領下におけるインドネシア・ポンチャナック事件の現地における記憶、現地慰霊祭、PTSD、口述資料の収集と、日本に残る関連者 BC 級戦犯(法務死者)の資料の照合。また、オランダ側の慰霊祭、オランダに残る記憶と慰霊祭の資料の照合。

(4) 疎開を含む戦争・戦場経験者のナラティブの収集とナラティブセラピーの研究、各国の語りの相違等の比較。戦争トラウマ概念の日本における確定

(5) 日本・英国における JSP 体験者の記録収集(口述、アーカイブ)

少なくなりゆく第二次正解大戦の経験がいかにトラウマ的体験として継承・記憶されているか、また原住民虐殺の事件の実相はどうかであったのかを各地に残る史資料を元に詳細に確定した。また連合軍捕虜、日本のプロパガンダ政策、JSP(降伏日本兵)、日本兵の慰霊について、全体的にトラウマ体験として検討

しつつ研究した。それらが扱うにあたり、主として文化的要因を視野にいれて研究することを心掛けた。

主として、現地フィールドワークにおけるオーラルヒストリーのよる口述資料収集、アーカイブにおける文書資料収集、既存資料の購入と整理、またPTSDのケアセンター等の訪問による調査を方法論とした。海外における研究協力者たちに、研究の内容について深める学会、研究会、面談などをアレンジしてもらった。また、英国において研究の成果を発表する会をアントニー・ベストと共に開催した。

森はナラティブセラピー、日本兵士の記憶や戦争の子供、つまり疎開体験などがあるものを対象に、「語ること」がいかに癒しに繋がるかを実践研究した。富田はマンドール事件の全容の把握と戦争の記憶とトラウマの継承、その継承を日本人に語ることの作用（語ることで怒りが再現の反応および、日本人に会えてよかったという反応）を観察した。身内や社会の中で話すことがあっても日本人に話すことが珍しい体験であった。慰霊祭においてはオランダとインドネシアの慰霊のあり方、戦争の記憶の扱い方の違いを観察した。西カリマンタンでは記憶の扱い方が違う。オランダのシステムティックな流れを汲み、儀礼的な側面が多い。マンドールはそこまで制度化されていないが、一般市民の自発的な参加ではなく、招待制でこじんまりとしてやっている。州レベルでオランダと日本とインドネシアの事件の解明を行っている。日本に対する働きかけの側面よりも、インドネシア全体への地域からの働きかけという側面があることも明らかとなった。マンドール事件の日本側の処刑者の記録については今後も引き続きNIODで調査を進める。

松岡はシンガポールナショナルアーカイブで捕虜関係の資料を収集したのち、昭南島

でのプロパガンダを研究すると共にミャンマー（ビルマ）での聴き取りというこの時期には非常にまれなことを達成した。ビルマでの慰霊祭、合同慰霊祭にてビルマで日本兵がどう受け止められているかを観察した。さらにアーカイブ調査では日本政府の軍隊の政策とプロパガンダがいったいどういう影響を与えたかを研究した。これらが捕虜に対する歌唱政策とどう関係したかの考察は今後の課題である。ビルマ側が記憶を記録したいのでオーラルヒストリーソサエティを作ろうとするムーブメントを援助中である。

中尾と森はドイツとオランダのセラピー研究所を訪問して今後の癒しのあり方を検討した。

中尾は全体の調査を統括すると共に、捕虜関係者への聞き取りを勤めるとともに、全体を統括すると共に二回にわけて、オーストラリアの元民間人抑留者を大学に招いて体験談を聞き、さらにアメリカ人捕虜のパターンの記憶継承の活動をフォローアップした。元捕虜にかんするアーカイブ化する書き起こし、資料整理、海外からのデータの買取り、データ整理、書き起こしを作成。その分析は継続的な課題となる。ユアン・マッカイは英国のJSP関係者のオーラルヒストリーと資料収取を引き続き行い、現在その成果をまとめる作業を行っている。それらの成果をふまえて、JSPとPOWについての日本側の受け止め方と連合軍側の比較をしていく予定である。

#### 4. 研究成果

- (1) 本研究によって、まず、これまで曖昧であり外部からしか知られていなかった、ポンチャナック事件の概要と、それが土地に残す記憶とその意

- 味、日本側の記憶との相違を把握することができた。インドネシア現地における慰霊祭の様子、現地のスルタンたちの記憶、感情の記憶などを把握することができた。これによって今後植民地における関係性を把握することが可能になる。
- (2) オランダ側に残る慰霊祭の内容を把握し、日本とオランダの間に残る感情の亀裂の深さ・距離・理由等をさらに強く把握することができた。
- (3) アクセスが難しく、生存者が少なかったビルマ戦線で日本側についたビルマ人(ミャンマー人)の口述記憶を残すことができ、またミャンマーにおける口述運動に刺激を与えることができた。(証言者はすでに死亡)
- (4) JSP における研究が進み、英国側で JSP を取り扱った人の口述を収集し、これまで研究の少ない JSP 研究について貴重な資料と研究を進めた。
- (5) 日本側の捕虜扱いについての口述資料は多くはないが、貴重な資料の文書化・アーカイブ化を行った。
- (6) 日本における戦争の PTSD への理解を各種の発表で増進させ、また英・蘭・ドイツの、PTSD の癒しや記録を行っている人々と交流し知見を深めることができた。
- (7) それらを活用し、日本でも戦争記憶のナラティブセラピーに援用した。
- (8) 以上の研究成果を、ドイツ、英国、東南アジアにおいて発表し、それらを研究論文等にまとめた。さらに英国では成果を発表するシンポジウムを開いた。
- (9) 今後の文化的要素の分析となる基礎的資料を整理することができた

(10) 連合軍捕虜にあわせて、日本では忘れられた歴史となった JSP の研究をさらに進めることができた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

中尾知代、戦争と暴力 こころの科学 11月号(172号)、査読有、学術評論社、2013、34 - 42

松岡昌和

「大東亜文化建設」と「日本音楽」  
平井達也他編 「グローバルゼーション再審」(図書所収論文)査読無  
2013、232-252

森茂起 江尻真樹、道免逸子、  
Narrative Exposure Therapyによる  
複雑性PTSDの治療(1) - 医療現場  
への導入例 日本サイコセラピー学  
会雑誌、査読有、13巻1号、2012、  
59 - 65

森茂樹、道免逸子、江尻真樹  
Narrative Exposure Therapyによる  
複雑性PTSDの治療(2)、日本サイ  
コセラピー学会雑誌、査読有、13巻  
1号、2012、67 - 74 .

中尾知代、三脇康生 戦争トラウマ  
の語りとレジリアンス、2011 こ  
ころと文化 多文化間精神医学会編  
金原書店 査読有 41 - 52

中尾知代 野上元、他、公開シンポ  
ジウム報告「戦争体験の記憶と語り」  
指定討論2 心の危機と臨床の知  
2010 甲南大学人間科学研究所紀要  
vol.11 査読有 35-41

[学会発表](計15件)

富田暁 三脇康生 ほか

戦争トラウマ マンドール事件とオランダの慰霊、日本のトラウマ 多文化間精神医学学会 2014年6月12日 長崎大学

Tomoyo Nakao, Japanese POW films and Diplomatic policy: Workshop on Colonial/Imperial Encounters in Wartime and Postwar Asia - Light and Darkness 2013年9月18日 LSE ロンドン経済大学 (英国)

Aki Tomita, How the Indonesian People commemorate the 'Massacre' Incident? The Japanese Occupation and its aftermath in West Kalimantan (Ex-Dutch Indies) : Workshop on Colonial/Imperial Encounters in Wartime and Postwar Asia - Light and Darkness 2013年9月18日 LSE ロンドン経済大学 (英国)

Masakazu Matsuoka, Cool Japan in WW II? Folktale 'Peach Boy' as war propaganda in Singapore) : Workshop on Colonial/Imperial Encounters in Wartime and Postwar Asia - Light and Darkness 2013年9月18日 LSE ロンドン経済大学 (英国)

森 茂樹 震災後のトラウマの扱い ドイツ精神分析学会 2013年8月6日 ミュンヘン支部 ドイツ

Masakazu Matsuoka, Western Taste or Oriental Taste? The Music in Japanese-Occupied Singapore and its

Reception 8<sup>th</sup> International Convention of Asia Scholars 2013年6月25日 The Venetian, Macau SA

中尾知代 富田暁 三脇康生

戦争トラウマ マンドール事件、オランダの捕虜と民間人抑留者の慰霊(1) 多文化間精神医学学会 2013年6月15日 栃木県総合文化センター

森 茂樹 震災後のトラウマの扱い トラウマセミナー Sigmund Freud Institut (ドイツ) 2013年5月13日

Tomoyo NAKAO

The Dream and Nightmare of the POWs and Civilian Internees University Fear: University of Cambridge 2012年11月3日 Cambridge University Library (英国)

Masakazu Matsuoka Japanese Music Propaganda in Shonan-to International Association of Historians of Asia 2012年7月4日 Hotel Said Jaya (インドネシア)

中尾知代 三脇康生 他

戦争トラウマ トラウマと語り 多文化間精神医学学会 2012年6月24日 九州大学

松岡昌和 日本占領下シンガポールにおける子ども向けプロパガンダの思想的背景 日本植民地教育史研究会 第27回定例研究会 2012年6月13日 こども教育宝仙大学

Tomoyo NAKAO, POWs from the United

Kingdom visiting Japan. Travelling Heritages, Return-tourism of WWII veterans, survivors and relatives to and from Indonesia and Japan 2010年10月21日

Tomoyo NAKAO

Food for the Thoughts: Fantasy Recipe in conference “Creativity Behind Barbed Wire”, McDonald Institute for Archaeological Research, University of Cambridge. (英国) 2010年4月12日

Euan McCay

Japanese JSP Newspapers

“Creativity Behind Barbed Wire” McDonald Institute for Archaeological Research, University of Cambridge. (英国) 2010年4月12日

〔図書〕(計3件)

Shigeo Mori Psychology in Asia  
London, Kamac 2013 181-193

Shigeo Mori, Yumi Yoshikawa, Haruhiro Ishitani Schweigen oder Vegessen? Reaktionen auf den Tsunami und die Bewsaumul Japan Freie Assoziation  
2013 29-47

中尾知代・三脇康生 レジリアンス・文化・創造 金原書店 2013年 133 - 153

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

中尾 知代 (NAKAO TOMOYO)

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・准教授

研究者番号：40207717

### (2)研究分担者

森 茂起 (MORI SIGEYUKI)

甲南大学・文学部・教授

研究者番号：00174386

### (3)研究協力者

富田 暁 (TOMITA Aki)

大阪大学大学院博士課程 (文化形態論 東洋史学)

松岡 昌和 (MATSUOKA MASAKAZU)

東京芸術大学・大学院音楽研究科

日本学術振興会特別研究員 (PD)

ユアン・マッケイ (Euan McCay)

東京大学大学院国際関係学博士課程

国際センター 事務員